

渡来人登場

弥生文化を開いた人々

4月17日[土]—6月27日[日]

主催 = 大阪府立弥生文化博物館・朝日新聞社・朝日放送 協賛 = 堺女子短期大学・大阪明浄女子短期大学
 ■開館時間: 午前10時～午後5時 (入館は4時30分まで) ■休館日: 毎週月曜日(5月3日[月]は開館、6日[木]は休館) ■入館料: 個人=一般600円・高大学生400円・小学生・65歳以上・障害者手帳を持つ方は無料、団体=一般480円・高大学生320円(団体は20名以上) ■所在地: 〒594-0083 和歌山市池上町443 TEL:0725-46-2182 ■交通: JR阪和線天王寺駅から525分「信太山」駅下車徒歩7分、南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分 ■駐車場: 乗用車80台・大型バス7台 無料

考古学セミナー
 時間: 午後2時～4時(1時から受付)
 会場: 1階ホール

第1回/4月25日
 石野 博信 香取県立歴史民俗資料館
 「近畿弥生社会の国際交流」

第2回/5月9日
 柳田 康雄 福岡県教育庁参事
 「北部九州のクニグニと外交」

第3回/5月30日
 山尾 幸久 立命館大学名誉教授
 「卑弥呼の時代の国際関係」

第4回/6月13日
 館長(金関 恕)と学芸員
 「弥生文化と渡来人」

●本セミナーには事前申込を必要としません。
 ●本館学芸員による特別解説
 特別展示室にて
 毎週日曜・祝日/午前11時～

 **大阪府立弥生文化博物館**

渡来人登場

弥生文化を特徴づける水田稲作や金属器をはじめとして、先進的かつ多種多様な文化が朝鮮半島から伝えられています。このことはその文化を携えた人々が、日本列島にやってきたことを意味します。今回の特別展では、北部九州・山陰・近畿を主要な地域として、とくに朝鮮半島南部の文化との比較を通じ、海によって結ばれた両地域の人々の動きを検証します。朝鮮半島の人々は、弥生時代成立時の大規模な渡来以来、波状的に海を渡り、倭のクニグニにおいて、大きな役割を果たしていったとみられます。彼ら、渡来人に焦点をあて、弥生文化を考えてみたいと思います。

第1章 海を渡って来た人々



① 復原した渡来系弥生人の顔
[山口県土井ヶ浜遺跡(男性人骨)]

② 土でつくった弥生人の顔
[弥生時代前期 鳥根東西川津遺跡]

弥生時代の遺跡から発見された人骨の顔つきや身長などから、渡来人の問題を考えます。また、彼らがどのような船で航海したのかを推定します。

第2章 ムラと米づくり



① 稲穂をつみとる道具(石包丁)
[弥生時代早期 佐賀県築畑遺跡]

朝鮮半島に系譜をもつ農具をはじめとして、鉄製・青銅製利器類や土器、また、ムラのあり方や住居の構造などから、彼らの渡来の実態を探ります。

第3章 墓とまつり



① 鈴の付いた銅製の柄の頭
[弥生時代中期併行期 韓国慶尚北道入室里遺跡]

支石墓を中心とする墓の比較を通じて、両地域の関連を考えます。さらに、多鈕細文鏡、小銅鐸や卜骨などの資料から、朝鮮半島との共通性を明らかにします。



① 朝鮮半島の鏡(多鈕細文鏡)〈重要文化財〉
[弥生時代中期 福岡県若山遺跡]

第4章 倭のクニグニと渡来人

北部九州のクニグニをはじめ、山陰・近畿の各地域に見られる朝鮮半島に系譜をもつ資料から、各地で活躍した渡来人の実像に迫ります。

① 伊都国発見の日本最大の鏡(重要文化財)
[弥生時代終末期 福岡県早良1号墓]



主な展示品

- 渡来系弥生人の顔の復原品
- 渡来人が伝えた最新の道具や華麗な祭器
- 北部九州の王者たちの権威のシンボル

重要文化財9点を含む480点
一挙出品予定

※期間中、一部展示替えします。